

令和8年度 西東京市立学校 学校経営計画

学校名	西東京市立ひばりが丘中学校	校長名	辻 康一
-----	---------------	-----	------

教育理念及び教育目標

「広く国際社会を創造性豊かに たくましく生きる人をめざして」
高い学力と知性を身に付け、豊かな心を育み、広く社会に貢献できる人材を育てる学校を創る

＜教育目標＞

- 自ら学ぶ (問題解決能力の育成)
- 豊かな心 (人間関係形成能力の育成)
- 夢の実現 (グローバルに活躍できる実践力の育成)

学校の特徴

- 1 伝統に培われた母校愛に基づき、生徒、保護者、卒業生、地域とともに創るコミュニティスクールを目指す学校
- 2 人権教育を中核に個に応じたきめ細かい指導に努め、生徒の健全育成を図る学校
- 3 自主・自立の精神に基づき、生徒が主体的な活動を展開する学校
- 4 小学校との接続を重視する学校

目指す学校像 (学校像、児童・生徒像、教師像)

【目指す学校像】「地域、保護者の期待に応える学校」

- ・生徒及び教職員一人一人が大切にされ、温かい雰囲気の中、一人一人が主役となる学校
- ・生徒、保護者、地域から信頼を寄せられる学校
- ・組織力が高く、柔軟な対応力や確実な実行力のある学校

【目指す生徒像】「知・徳・体のバランスがとれた生徒」

- ・授業を大切にし、自ら考え、主体的に学ぶ生徒
- ・自他の価値を尊重し、夢の実現を目指して未来を切り開く生徒
- ・健康と体力増進に自ら努める生徒

【目指す教師像】「高い人権意識と実践的指導力をもつ教師」

- ・人権意識を高くもち、「西東京市あったか先生」を実践し体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組む教師
- ・学習指導力、生活指導・進路指導力、組織貢献力、外部との連携折衝力をバランスよく高め、教育公務員としての自覚と誇りをもつ教師
- ・柔軟な対応力を持ち、共に高めあい学び続ける教師
- ・働き方改革を実践し、豊かな生き方を示すことができる教師

学校経営の目標

1 中期経営目標（中間的課題）

～西東京市教育計画に基づいた教育の質の向上と活性化～

- (1) 質の高い授業の展開（「自ら学ぶ」「豊かな心」「夢の実現」）
日々の授業改善による「主体的・対話的で深い学び」と西東京市 GIGA スクール構想の実現。ESD 教育により国際社会を創造性豊かに生きる人材の育成。
- (2) 小中一貫教育の推進とその充実（「自ら学ぶ」「豊かな心」「夢の実現」）
・小学校からの円滑な接続と学びの連続性を重視した教育課程の編成。
- (3) 健康でたくましい心と体の育成（「豊かな心」「夢の実現」）
・自他を大切にし、自己肯定感が高く主体的に行動する生徒及び集団の育成。
- (4) 学校組織力の向上
・地域、保護者とともに創るコミュニティスクール。
・固定制特別支援学級を中核とする特別支援教育の強力な推進。

2 短期経営目標（1に基づく本年度の重点目標）

- (1) 授業改善及び研究・研修の充実による質の高い授業の実践。人権教育の視点を大切にした授業による主体的な学習者の育成と学力の向上。
 - (1) 日常的な小中の情報・行動連携による小中の連携事業の推進。
 - (3) 人権教育の視点を大切にした特別活動の指導により、生徒会活動、行事、学級活動等の生徒の主体的な活動の充実。
 - (4) コミュニティスクールによる地域学校協働活動やユニバーサルデザインの考え方をふまえたインクルーシブ教育や人権教育の充実。

具体的方策

（短期経営目標を達成するための学校の具体的な取組）

1 質の高い授業の展開（主体的、対話的で深い学びの実現）

- ・「主体的、対話的で深い学び」の実現により、生徒の「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」を図る。特に話し合い活動「ひばりスタンダード」や ICT の効果的な活用等で、生徒の主体性を育む授業改善を実践し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を実現する。そのために一人一回以上の研究授業、及び生徒による授業アンケートを行い、授業改善に取り組む。
- ・西東京市 GIGA スクール構想の基本方針に従い、一人 1 台のタブレット等の ICT を効果的に活用し、生徒の問題解決能力、情報活用能力の育成を図る。
- ・「考え、議論する道德」の授業では、他者と尊重しあう豊かな心を育む。特に人権教育に関わる授業を充実させる。
- ・総合的な学習の時間では、「夢の実現」を具現化するキャリア教育、「西東京ふるさと探究学習」を具現化する職場体験や職業講話、SDGs の視点から学ぶ地域学習等、体験学習やフィールドワーク、地域人材の活用、生徒同士の学び合いにより課題解決学習に取り組む。

2 小中一貫教育の充実

- ・生徒一人一人の情報を細やかに共有し、義務教育 9 年間の学びの連続性を確立するために、年二回の小中連携の日を設定する。
- ・小学生の部活動体験や小学校への出前授業等で中学校への円滑な接続を実現する。

3 きめ細かい生活指導と外部との連携

- ・生徒一人一人を大切に「西東京あったか先生」を実践し人権教育を推進する。
- ・生活指導部、教育相談、特別支援委員会（校内委員会）による細やかな報・連・相記・確と組織的な指導體制を確立する。外部の機関との行動連携により、生徒の健全育成といじめ、虐待、不登校等の学校不適應の未然防止、早期発見、的確な対応を行う。また昨年開始した「ひばりホットルーム」による不登校生徒の別室指導、オンライン授業等で登校復帰をするチャンスや環境をつくる。
- ・話し合い学習「ひばりスタンダード」では、人権教育の視点を大切にし、自己肯定感を高めコミュニケーション能力を向上させる。
- ・東京都人権教育推進校としての研究成果でもある、生徒の主体的な活動の具現化を生徒会活動、学級活動、行事等で充実させる。

4 地域、保護者と協働し、学校組織力の向上を図る

- ・地域学校協働活動を充実させ、学校の課題改善に協働して取り組む。
- ・特別支援学級と通常学級の教職員とともに指導の強みを活かし合い、校内研修の充実を図り、人権教育および特別支援教育を推進する体制を確立する。
- ・経営支援部、の充実、SSS、副校長支援員の効果的な活用による教員の働き方改革による業務改善を推進し、学校の組織力を向上させる。
- ・健康で充実した働き方を推進するために教職員の時間外在校時間を月 45 時間以下、及び年休習得を 10 日以上にする。